

# 香川大学 大学教育基盤センターニュース

No. 20

令和7年6月

*Higher Education Center  
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター  
〒760-8521 高松市幸町1-1  
Tel 087-832-1151~1153  
Fax 087-832-1155  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

## 目 次

1. 令和7年度の大学教育基盤センターの課題について…………… 1
2. 退任のご挨拶…………… 2
3. 全学共通教育の令和7年度実施に向けた研修会（FD）報告…………… 3
4. 令和7年度新任教員研修会報告…………… 4
5. 注目の全学共通科目のご紹介…………… 6
6. 注目のFD等のご紹介…………… 7
7. 新スタッフからの一言…………… 9

## 1. 令和7年度の大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高橋尚志

2022年4月から始まった第4期中期目標期間も後半に突入し、今年度が中間評価のための節目の年となります。本学で全面的に見直した全学共通教育カリキュラムについてこれまで3年間実施してきました。私達は私達なりの教養像を議論し、学生が自ら学び進むべき方向を見定めることのできる自己選択力を育むことを押し出し、いくつかの新たな科目を創設しました。それらの新たなカリキュラムが真に学生達のためのものとなっているか、カリキュラム実施主体である私達が無理のない継続可能なものとし得ているかが問われているところです。これまでの努力を継続しつつ、私達は今年度の課題を以下の通り設定しました。

1. 第4期中期目標期間に開始した全学共通教育カリキュラムの着実な実施
2. DRI教育の全学展開推進とアセスメントテストの円滑な実施
3. 分野横断型授業科目・ネクストプログラムの充実
4. 数理・データサイエンス・AI教育事業の充実と四国ブロックへの展開
5. 外国語教育とグローバル人材育成プログラムのさらなる充実
6. 地域理解に資する教育の多様化と円滑な実施
7. DRI教育拡充に向けた教員の教授能力の向上とFDコンテンツの充実化

1番目に掲げているのは、上に述べたことそのものであり、中心的な課題です。また、2と3番目の課題は中期計画において全学で取り組むものとしており、その全学展開には当センターが先導する役割を担っております。4番目に関しては、新たに危機管理学と掛け合わせるプログラムを策定し実施し、その充実を図ることおよび大学院への展開も図り実施することが課題となっています。また、今年度入学した「情報I」必修化世代に対応した新カリキュラムの着実な実施が今年度の必須課題となっています。5番目については、英語能力の強化策を検討するとともに、外国語の履修にかかる学生のニーズに応えるべく韓国語を強化し、3とも関連しグローバル人材育成プログラムに韓国語のコースをスタートしました。6番目の地域理解については、特別主題（地域）やライフデザイン科目の中での多様化に加え、コロナ禍の制約が解かれた条件を活かしフィールドワークである実践型科目の円滑な実施体制を整備していくことが課題となります。また、7番目の課題については生成AIが広く利用される環境下においてどう利活用するのか教員の教授能力の育成は欠かせません。多忙化している教員に対して十分なFD受講機会を提供すべく、オンデマンド型コンテンツを充実させることを課題としています。

くり返しになりますが、今年度は大学にとっても当センターにとっても重要な節目の年となります。全てのセンター教職員で、全学共通教育の円滑な実施に邁進していく所存です。みなさまにおかれましては、どうぞよろしく叱咤激励、ご指導ご鞭撻のほどお願いします。

## 2. 退任のご挨拶

大学教育基盤センター講師 ウィリアムズ厚子



「40年の教員生活お疲れ様。最後が香川大学で本当によかったわ。」と103歳になる私の母は、まるで自分のことのように喜んでいる。なぜそう思うのかと問うと、「だってこの歳まで、香大が香川県の最高学府（の一つ）としてずっと発展してきたのを私は見てきたのよ。」と生え抜きの眉雪は当然のように微笑んだ。確かに、私は幼い頃から、香川大学の歴史や卒業生の進路のことを母から時々聞かされてきた。それだけ、地元の人が関心を向けているということの表れである。もしかすると、卒業生や職員よりも温かく、また厳しく見守ってくれているのかもしれない。まさに地域に根付いた大学である。これからもきっとこの立ち位置が変わることはないだろう。

このような素晴らしい大学での6年半を支えてくれたのは、他ならぬ学生たちである。彼らの真摯に取り組む姿は、私の英語教育と研究への熱源であり、内省への重要なプロセスとなっていた。授業後に受ける個別の質問の時間は、私の至福の時であった。TOEICの点数を報告してくれる学生の喜びや落胆を、彼ら以上に味わった。教室を出る時の「ありがとうございました」という挨拶でさえ、私を初心に帰らせてくれた。誠実さと真面目さが人をどれだけ動かすかということを経験したように思う。感謝の気持ちでいっぱいだ。

そして、このラストステージへと背中を押してくれたのは、高校の教え子たちである。彼らの存在がなければ、研究者への道を歩むこともなかっただろう。彼らが投げかけた素朴な疑問が3年間の博士課程における私の研究の源泉である。その教え子たちが研究室に時々顔を出してくれる度に、今の自分は40年間の教え子たちがいたからこそ存在するのだということを実感した。

お世話になった大学教育基盤センターと関係の方々から心から感謝しつつ、今後の香川大学、そして香川と日本の英語教育の更なる発展を心から祈願しお別れのご挨拶としたい。ありがとうございました。

### 3. 全学共通教育の令和7年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：令和6年12月10日（火）13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス3号館321講義室及びオンライン開催（Teams）

令和7年度の全学共通教育担当者を対象にした「全学共通教育の令和7年度実施に向けた研修会」が、開催されました。開催方式は、講義室の対面と Teams によるオンラインのハイブリッドでした。参加者は、第1部が83名、第2部が44名でした。

第1部では、「全学共通教育新カリキュラムについての検証結果、および全学共通教育と関連する取組」について報告がありました。具体的には、「全学共通教育新カリキュラムの全体像」（三宅岳史 大学教育基盤センター共通教育部長）、「全学共通教育新カリキュラムの受講動向」（西本佳代 大学教育基盤センター准教授）、「数理 DS プログラムについて」（高橋尚志 大学教育基盤センター長）、「ティーチング・フェロー（TF）制度について」（蝶慎一 大学教育基盤センター准教授）、「授業評価アンケートの活用について」（後藤雅美 教育企画課長）と題した報告がなされました。

第2部では、「改めて考える対面授業の設計」というテーマで実施されました。まず、授業の実践事例の報告があり、文系科目は、「遠隔技術が授業設計に与えた影響」（岡田徹太郎 経済学部教授）、理系科目は、「新型コロナウイルス感染拡大期からの教育者としての学び」（横平政直 医学部教授）と題した報告がなされました。次に、対面参加者は、簡易的なグループワーク（司会者と発表者を決め、自己紹介、報告内容についての感想や質問に関する話し合い、話し合った内容の発表）を行いました。簡易的なグループワークを実施している間、遠隔参加者はチャットに質問などを書き込みました。

詳細は『香川大学教育研究』第22号所収の報告をご覧ください。[香川大学学術情報リポジトリ \(nii.ac.jp\)](https://www.nii.ac.jp)から PDF 版をダウンロードすることができます。

（文責：小坂有資）

## 4. 令和7年度新任教員研修会報告

日時：令和7年4月8日（火）9:00～16:35

場所：午前の部：幸町北キャンパス3号館321講義室

午後の部：幸町北キャンパス3号館432講義室

### 【プログラム】

#### 午前の部 9:00～12:15

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| 1. 開会挨拶                                | 上田夏生（学長）                         |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について                   | 荒木伸一（教育担当理事）                     |
| 3. 研究活動について                            | 秋光和也（研究担当理事）                     |
| 4. 香川大学の地域連携の取組について<br>（産学官連携の推進）      | 原直行（産官学連携・特命担当副学長）               |
| 5. 教員業績評価について                          | 野口里美（企画・評価・ダイバーシティ<br>担当理事・副学長）  |
| 6. 研究インテグリティについて                       | 石原淳也（産学連携・知的財産センター特命教授）          |
| 7. コンプライアンスを考える<br>化学物質規制に係る法改正の概要について | 真鍋光輝（総務・労務担当理事）                  |
| 8. 情報セキュリティについて                        | 吉田秀典（危機管理・学術・特命担当副学長）            |
| 9. 各部局からの事務説明                          | 保健管理センター・学生支援センター・<br>ダイバーシティ推進室 |
| 10. 令和7年度香川大学 J-PEAKS<br>シンポジウムについて    | イノベーションデザイン研究所                   |

#### 午後の部 13:30～16:35

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明                | 松本洋明（大教センター能力開発部長）  |
| 2. 令和7年度全学共通教育の<br>枠組みと運営体制 | 三宅岳史（大教センター共通教育部長）  |
| 3. 令和7年度全学共通教育の方法について       | 岡田徹太郎（大教センター調査研究部長） |
| 4. 香川大学におけるFDの概要について        | 蝶慎一（大教センター）         |
| 5. スキルアップ講座について             | 西本佳代（大教センター）        |
| 6. 新任教員お悩み相談                | 佐藤慶太（大教センター）        |
| 7. 修了式                      |                     |

令和7年度の新任教員研修会が4月8日に開催されました。本年度は24名のご参加がございました。午前中では学長のご挨拶の後、教育・研究活動・教員評価・産学連携・地域貢献の取組み・研究インテグリティ・コンプライアンス・情報セキュリティ等について、それぞれ担当の理事・副学長・教員からご説明ございました。午後は大学教育基盤センターが全学共通教育に関する説明、





また Faculty Development(FD)の概要、スキルアップ講座について説明が行われました。

この午後の部では、まず大学教育基盤センター能力開発部長（松本）の趣旨説明の後に三宅共通教育部長より令和7年度全学共通教育の枠組みと運営体制についてご説明ございました。その後に、全学共通教育の方法としてアイスブレイク

を紹介して、どのようにグループワークをしていくのか、いわゆる“アクティブラーニング”のアプローチ、グループワークを通して岡田調査研究部長よりご教示頂きました。

その後に休憩を挟み、蝶教員（大学教育基盤センター）より香川大学におけるFDの概要について詳細にご説明があり、また西本教員（大学教育基盤センター）よりスキルアップ講座について講義頂きました（特にここではアクティブラーニングについて講義頂きました）。その後に各学部から選出された能力開発部委員により、新任教員お悩み相談の時間が設けられました（佐藤教員（大学教育センター）司会）。その際に、参加者から多くの質問があり、能力開発部委員が丁寧に説明・回答を頂きました。本年度からこの能力開発部委員の一部の先生方においては遠隔で参加頂き、ハイブリッドでお悩み相談が開催されました。

最後に修了式が開催され（高橋大学教育基盤センター長、荒木教育担当理事よりお話を頂きました）、その後に能力開発部長（松本）より「新任教員研修プログラム」の受講対象者にガイダンスを実施し、受講すべき意義と背景について説明を致しました。また令和7年度の新任教員研修ワークショップは9月4日、5日で開催される旨アナウンス致しました。

研修会終了後では懇親会が開催されました。以上、1日中で開催されましたが、非常に有意義な研修会となりました。

（文責：松本洋明）

## 5. 注目の全学共通科目のご紹介

講義名：高度教養教育科目「危機管理学×数理・データサイエンス・AI 教育特別プログラム課題演習」

講師：久保栞（四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 特命講師）

危機管理学とデータサイエンス・AI 教育を横断的に学ぶ「危機管理学×数理・データサイエンス・AI 教育特別プログラム課題演習」が昨年度から開講され、社会課題のひとつである防災・減災工学をテーマに、データサイエンスと AI の技術の基礎から実践的な画像解析までを一貫して学ぶ内容が展開されました。

講義の前半では、AI の定義や歴史的背景、活用事例の紹介に加え、Python によるプログラミングの基礎や、回帰・分類・モデル評価といった基本的な技術を段階的に習得し、後半では、実データを用いた演習として、航空画像から斜面崩壊領域を検出するセグメンテーションモデルの構築や検証に取り組みました。

講義では、事前に配布された Google Colaboratory のノートブックをもとに、自ら手を動かしてコーディングを行い、その動作や仕組みを一つひとつ確認しながら学習を進めました。実際にコードを書いて実行することで、基礎的な構文から AI モデルの動作原理まで理解を深め、実践的なスキルの定着を図る内容となっています。

受講生からは、「データサイエンスを学び、社会的課題の解決に貢献できるスキルを身につけたいと考えて参加したが、防災・危機管理分野への関心も深まった。先生が丁寧に教えてくれたため、プログラミング初心者でも無理なく取り組むことができました。」といった声が寄せられました。

今年度も、昨年度と同様、前半に基礎、後半に応用を学習する構成としますが、ChatGPT をはじめとする生成 AI を積極的に活用したコーディングや課題解決型学習を取り入れることで、講義終了後においても学生が主体的に学修を継続できるような学習支援の実現を図ります。

（文責：久保栞）



## 6. 注目のFD等のご紹介

- 講義名：男木島の可能性を信じて：地域活性化のリアルと次世代への挑戦
- 日時：令和7年3月10日（月）13:00～14:30
- 開催方法：ハイブリッド開催（遠隔配信：Teams / 対面：幸町北キャンパス5号館525講義室）
- 講師：福井大和氏（NPO法人男木島生活研究所・代表）
- 参加者：48名

本FDは、DRI教育に関するFDとして開催されました。DRI教育では、地域にイノベーションを創出する人材を育成することが、主要な目的の1つです。そこで、男木島という地域で様々なイノベーションを創出しており、さらに、本学の学生と協働しているということもあり、福井大和氏に本FDの講師をご担当いただきました。

まず、男木島の人口推移、生活や風習・文化といった男木島に関する基本的な情報について説明がありました。次に、地域イノベーションの実践事例として、NPO法人男木島生活研究所とNPO法人男木島図書館の活動が紹介されました。NPO法人男木島図書館の活動には、本学の学生も関わっています。さらに、今後の男木島での持続可能な生活を考えるうえで、島民が100人を切らない島にするために、地域の特産物を活用して移住者の生業を生み出すため6次産業の挑戦、令和5年度スマートアイランド推進実証調査における男木島での調査「関係人口創出や防災リテラシーの強化等島の課題解決に向けたメタバーズ・デジタルマップの効果的な活用方法の検証」、男木島だけでなく島と島とを繋ぐ交流会や「島つなぎプロジェクト」等について、説明をしていただきました。

質疑応答では地域イノベーションや地域活性化等について活発な議論がなされ、本FD後も、対話を求めて福井氏に話しかける参加者が複数名おり、貴重な交流も行われました。  
(文責：小坂有資)

### ■令和6年度後期FD実施報告

大学教育基盤センターでは、令和6年12月以降に以下のとおりFDを実施しました。

講義名：主題担当者用FD（アドバンスト） 事例を踏まえて学ぶ課題探求型授業のデザイン
日時：令和6年12月20日（金）～令和7年3月31日（月）
開催方法：オンデマンド（香川大学Moodle）
講師：小坂有資、佐藤慶太、三宅岳史など調査研究部常設WGメンバー （大学教育基盤センター）
参加者：14名 （受講対象・令和7年度主題科目担当者教員、新任教員研修プログラム対象教員）

<p>講義名：主題担当者用 FD（ベーシック） 事例を踏まえて学ぶ課題探求型授業のデザイン</p> <p>日時：令和6年12月20日（金）～令和7年3月31日（月）</p> <p>開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle）</p> <p>講師：小坂有資、佐藤慶太、三宅岳史など調査研究部常設 WG メンバー （大学教育基盤センター）</p> <p>参加者：24名 （受講対象・令和7年度主題科目担当教員）</p>
<p>講義名：学生の学びを促すシラバスの書き方</p> <p>日時：令和6年12月25日（水）10:30～12:00</p> <p>場所：幸町北キャンパス5号館523講義室</p> <p>講師：蝶慎一（大学教育基盤センター准教授）</p> <p>参加者：3名</p>
<p>講義名：学生参加型授業の技法</p> <p>日時：令和6年12月25日（水）13:00～14:30</p> <p>場所：幸町北キャンパス5号館523講義室</p> <p>講師：西本佳代（大学教育基盤センター准教授）</p> <p>参加者：3名</p>
<p>講義名：基礎から学ぶ学習評価法</p> <p>日時：令和6年12月25日（水）14:40～16:10</p> <p>場所：幸町北キャンパス5号館523講義室</p> <p>講師：佐藤慶太（大学教育基盤センター教授）</p> <p>参加者：2名</p>
<p>講義名：シラバス・授業を改善しよう</p> <p>日時：令和6年12月26日（木）10:00～15:00</p> <p>場所：幸町北キャンパス5号館523講義室</p> <p>講師：蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太（大学教育基盤センター）</p> <p>参加者：4名</p>

また、次年度にティーチング・フェローとして活動予定の大学院生を対象とした TF 講習会を、8月に引き続き、以下のとおり実施しました。

<p>講義名：ティーチング・フェロー（TF）講習会</p> <p>日時：令和7年3月3日（月）13:00～17:50</p> <p>場所：幸町北キャンパス8号館811講義室</p> <p>講師：松本洋明・蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太・能力開発部委員 （大学教育基盤センター）</p> <p>参加者：3名</p>
--

## 7. 新スタッフからの一言

大学教育基盤センター講師 中川 梓



令和7年度より大学教育基盤センターの講師として着任いたしました、中川梓と申します。4月に赴任したばかりで、まだ不慣れな点も多い中、すでにお目にかかった皆様には温かく迎えいただき、心より感謝申し上げます。今後、皆様とともに仕事ができることを大変光栄かつ嬉しく思っております。

専門は、認知言語学的知見を取り入れた第二言語習得で、言語が違えば世界の見え方も変わる、そんな面白さを授業を通して学生に伝えていきたいと思っております。また、日本語・英語を問わず、他者とコミュニケーションを取ることを学生と共有し、彼（女）らの視野や知見を広げるきっかけを提供できるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

修学支援課課長補佐 小寺賢志



令和7年4月付けで、修学支援課に異動になりました小寺賢志です。香川大学農学部出身で、学生時代は希少糖センターで希少糖の研究をしていました。

3月までは情報部に所属しており、主にDX推進を担当、SPODフォーラムなど大学内外のハンズオンセミナーの講師、全国ワークスタイル変革大賞での発表、DX教科書の執筆、自分の固定先を持たない働き方（フリーアドレス）を実践など幅広く活動させていただいておりました。趣味はテニスで、大学のコートでお昼休みや仕事後にしています。

学生関係の部署は新人職員時代以来ですが、学生が学びやすい教職員が働きやすい香川大学にこれまで以上になるように努めてまいります。よろしくお願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援課）までお願いします。